

アメリカの協働ガバナンス

既往研究の質的統合と理論的枠組みの発展

おがわ やまと
小川 大和

関西学院大学教授（総務省からの派遣）

一九九〇年代以降、社会課題等の解決に向けて、さまざまな分野・専門・職種の方が集い、その壁を越えて、ともに協力して働くという「協働」という手法が増加しています。近年では、協働によりともに価値を創出する「共創」、協働⇨多様な人と人のつながりから生まれるアイデアを融合・昇華させる「協働イノベーション」、デジタルプラットフォーム上での「デジタル協働」なども一般的になってきています。

協働は、日本を含めた世界中で研究・実践されています。しかし本書は、日本ではなく、アメリカの協働ガバナンスに関する研究結果を示すものになります。理由は主に四つあります。

一つ目が、日本の協働については、理論・実践ともに多くの文献が示されていますが、アメリカの協働については、先進的

そこで、既存フレームに最新の知見を付与し、全体的なフレームを更新することで、研究の発展に寄与したいと考えました。

四つ目が、実際の協働現場において、これらの全体的なフレームに沿って、科学的なバックボーンに基づいた各ステツプを踏むことで、より有効かつ効率的な協働の実践の一助になるのではと考えました。

具体的には、まず第1章で、日本ではいずれも「協働」と訳される「[Collaboration]」「Co-production」「Partnership」等の研究について、アメリカにおける既往研究を整理したうえで、本書では、「[Collaboration]」研究をベースを示しています。また、「[Collaboration]」研究を、その発展に沿って、第一〜三段階に分けています。

第2章で、二〇〇八年にアメリカで発表された「協働ガバナンスモデル」(第二段階の全体的なフレーム)をベースにしつつ、それ以降、すなわち、二〇〇九年以降にアメリカで発表された論文一一七本(第三段階における最新の論文)をシステムチック・レビューし、そこから導出されたインプリケーションを質的に統合して、「協働ガバナンスモデル」を発展させた「新・協働ガバナンスモデル」を構築することを試みています。

第3章では、新・協働ガバナンスモデルのむっとも重要な構成要素の一つである、「力/資源/知識の非対称」の均衡化に

な研究が数多く展開されているにもかかわらず、日本ではほとんど知られていないことです。それを広く伝えること自体に、一つの研究上の意義があると考えました。

二つ目が、日本における協働領域の既存研究は、①事例研究(すなわち一部分的研究)が大半である、②実証研究が少ない、という特徴があります。そこで、不足部分を埋めるため、①全体的なフレームで捉える研究を行う、②それらが実証されていることを示す、ということによって研究の発展に寄与できるのではないかと考えました。

三つ目が、他方で、アメリカにおける協働領域の既存研究においては、全体的なフレームはあるものの、そこに最新の研究結果に基づく知見が付与されていない、という特徴があります。

ついで、より日本語的な表現として「対等性」という言葉に置き換えたうえで、その規定要因についての考察を深めています。

より具体的には、アメリカのモデルをベースに理論的モデル「協働における対等性に影響を与える要因」を構築し、仮説との関係性を説明したうえで、モデルを、日本の文脈になります。が、市区町村(三五九団体、認定・特例認定NPO(四〇〇団体)へのアンケート調査の結果をもとに統計的に検証しています。

すなわち、第2章では、協働ガバナンス全体の最新の理論的枠組みを構築し、第3章では、その構成要素である対等性に関する理論的枠組みを構築しています。これらの研究を通して、少しでも、協働領域の研究の発展、協働の実践に貢献できないかと考えています。

本書は、総務省での仕事と並行して早稲田大学で執筆した博士論文を、大幅に追記・改定したものです。至らない点が多々あるかと存じますが、読んでいただくと、研究・実践両面において、多少なりとも知見をご提供できる部分もあるかと思えます。よろしければ、ぜひ一読いただけましたら幸いです。



アメリカの先進的協働ガバナンス研究と考察

アメリカの協働ガバナンス

既往研究の質的統合と理論的枠組みの発展

小川 大和(著)

A5判 二八四頁

五三九〇円(税込)